

のうがくかい

# 「なごやか農楽会」だより 74号

2023.5月(夏)号



なごやか農楽会からのお知らせ

2023年度(22期)総会

～ 令和5年度(22期)総会開催 ～

援農作業予定 (6～8月)

援農作業実績 (2～4月)

農家さん紹介 / あいちの伝統野菜など

## なごやか農楽会からのお知らせ

令和5年度(22期)  
なごやか農楽会総会開催

令和5年度総会が4月23日(日)に名古屋市中土木事務所で開催されました。コロナ感染対策等のため、午前(てんぱく、みどり支部参加)と午後(もりやま、港・中川支部参加)に分散して開催しました。てんぱく支部22名、みどり支部15名、もりやま支部21名、港・中川支部33名計91名の会員の出席となりました。午前の総会では新しく担当になりました名古屋市都市農業課 河原主幹にご挨拶を頂いたのち、杉野会長の司会で進行しました。

事務局から令和4年度の事業報告、決算・会計監査報告があり、各議案毎の質疑応答を経て承認されました。令和5年度の役員・評議員の選出(10名 会長・副会長は支部長兼任)を行い、選出後の事務局より令和5年度の事業計画(HP運営委員会の発足、研修会の実施等)、令和5年度の事業予算の提案があり、各議案毎の質疑応答を経て承認されました。閉会后、所属支部ごとに分かれ、支部総会が開催されました。

なごやか農楽会だよりは、名古屋市農業センターのご協力により発行しております。

# なごやか農楽会からのお知らせ

## 令和5年度役員・評議員

会長（支部長持ち回り・兼務）	横井 雅幸	10期
副会長（支部長持ち回り・兼務）	深尾 聡	19期
事務局長（保険）	佐藤 誠治	16期
てんぱく支部長	杉野 正和	13期
みどり支部長	横井 雅幸	10期
もりやま支部長（新任）	深尾 聡	19期
港・中川支部長	久野 伸	19期
畑の管理活動チームリーダー	川合 雅彦	7期
会計	大熊 悦子	19期
副事務局長（イベント・統計）	滝 政次	13期
副事務局長（広報）	水野 正勝	13期
会計監査	中地 陽一郎	16期

## なごやか農楽会の名古屋市担当課の変更

名古屋市農業センターは、現在リニューアル休業中ですが、以下のように農業センターの運営は指定管理者に変更になりました。

### 名古屋市農業センター リニューアル整備・管理運営事業

本事業は、市が資金調達し、事業者が設計・建設・管理運営を一体的に行うDBO方式により実施します。園内施設の改修・改築を行う「リニューアル整備事業」と、指定管理者となって管理運営にあたる「管理運営業務」をそれぞれ担う事業者（連合体）を公募し、ハード・ソフト一体となった取り組みによって魅力向上を図ります。

### めざす姿

- ・「農」を通じて自然や命の尊さを伝える「市民と農の架け橋」として、持続可能な人の暮らしのあり方について、知る・体験する・考える、「きっかけの場」となることを目指します。
- ・これまで培ってきた資産である、乳牛・鶏・しだれ梅・野菜を活かし、一年を通して「農のある暮らし」を総合的に楽しめる農業公園の運営に取り組みます。

#### 指定管理業務

##### 市の事業として実施する

- ・園芸、畜産業務
- ・運営事務
- ・維持管理業務
- ・駐車場管理業務
- ・市民菜園業務
- ・食農教育、体験教室業務
- ・園芸相談業務 など

#### 自主事業

##### 一団体の事業として実施する

- ・売店の設置・運営 ※
  - ・乳製品加工販売
  - ・飲食サービス
  - ・自主イベント
  - ・動物ふれあい など
- ※売店については必須、その他は任意提案とします

（名古屋市ホームページより転載）

農業ボランティアの業務は指定管理者の業務ではないため、なごやか農楽会の名古屋市窓口は「農業センター」から「緑政土木局都市農業課」になりました。新規援農先の登録、農業ボランティア育成講座も都市農業課の担当となりますので、都市農業課の協力を得ながらボランティア活動を進めます。（会議等は引き続き農業センターを利用するなど行事上の変更はございません）

## 未払いの会費の振込につきまし(重要)

今年度の会費（1,000円）の未払の方は、振込み（ゆうちょ銀行（振替））をお願いいたします。ゆうちょダイレクト（インターネットバンキング）・ゆうちょ銀行口座からのATMでの振替が振込費用が安くできます。ゆうちょ銀行口座から振替も利用できます。なるべく早めをお願いいたします。なお、ゆうちょ銀行の自分の口座以外からの振替の場合振込人名かわかるようにご依頼人名欄になごやか農楽会会員のお名前を忘れずにご記入下さい。振込（振替）先等は次のとおりです。

振込先：ゆうちょ銀行(記号12100)記号・番号の場合  
口座名：なごやか農楽会  
種類：普通預金口座(番号68446931)  
(他銀行からは、店番218 普通預金6844693)

## 評議会報告

### 報告・審議・検討事項

#### 2月度会議（2月4日開催）

- (1) 2月1日に、指定事業者のホームックス(株)、(株)日比谷アメニスと面会。農楽会の会議室の使用の窓口としてはホームックス(株)になる。10月から会議室利用可能になるようすすめるとのこと。
- (2) 第22期総会の運営について  
開催場所を「名古屋市中区土木事務所3F技術研修室」とする。開催時間は午前・午後に別れて開催する。

#### (3) HP運営委員会について

HP運営委員会の構成 委員長事務局長 委員 事務局メンバー支部長除く ホームページ企画チーム、ホームページ運営チームは会員から募集 ホームページ企画チームの役割 HP運営委員会構成メンバーとして、記載する企画・内容について広く検討。ホームページ運営チームの役割HP運営委員会構成メンバーとして、運営・更新作業を実行。

#### 3月度会議（3月11日開催）

- (1) 令和4年度（21期）事業報告（案）、令和5年度（22期）事業計画（案）について提案内容を検討した。

(3) 令和5年度（22期）役員（案）に関してもりやま支部長に19期深尾さん、他は変更ない内容で提案。

(4) 農業センターは22日から休園となる。3月31日までは農業センターが担当するが4月以降は都市農業課が担当。

・来年度はボランティア育成講座は行わない。その代わりに、会員の「学び直し」という趣旨で農楽会会員向けに研修会を開催する。

#### 4月度会議（4月8日開催）

新しく担当となった名古屋市都市農業課 河原主幹、早川技師も参加

- (1) 令和5年度の農楽会との共催による会員向け研修の名古屋の農業の現状の内容について検討。
- (2) 第22期総会の議案・運営等について 内容の検討・確認を行った

# 援農作業予定 (6 ~ 8月)

## てんぱく支部



タマネギの収穫



農園めぐりツアー手伝い

6月  
タマネギの収穫、出荷準備、  
ぶどうの玉落とし

7月  
カボチャの収穫、  
名古屋市農園めぐりツアー手伝い

8月  
ニンジンの種蒔き、畑の畑整理

## みどり支部

支部会員へのお願い

援農作業風景の写真を募集しています。  
農家さんにご迷惑をおかけしないよう事前に  
了解を頂いた上、休憩時間の前後の時間に  
撮って下さい。支部長と相談の上。

6月  
タマネギの収穫、  
ジャガイモの収穫

7月  
ニンジン、里芋の追肥  
サスマイモ畑の除草

8月  
トマト収穫、ピーマン収穫、  
及び袋詰め



# 援農作業予定 (6～8月)

## もりやま支部



ぶどうの袋掛け



ブルーベリーの収穫・選果

6月  
トマト、タマネギ等収穫、畑整理、  
ぶどう蔓切り・枝切り、  
梅収穫、防草シート敷き

7月  
畑整理、草取り、  
ぶどう蔓切り・枝切り・袋掛け、  
ぶどう棚番線整備、ブルーベリー収穫

8月  
タマネギ皮むき、畑整理、  
ぶどう収穫、ブルーベリー収穫

## 港・中川支部



トウモロコシ収穫体験補助

6月  
トマトの出荷用箱作り、落下トマトの清掃、  
トマトの下葉切り、トウモロコシ収穫体験補助、  
野菜の収穫・選別・袋詰(ナス、ラッキョウ、  
ジャガイモ、トウモロコシ、カボチャ)  
ミツバの出荷調製

7月  
トウモロコシ収穫体験補助、  
野菜の収穫・選別・袋詰(ピーマン、ナス、ナス、  
カボチャ、ラッキョウ、トマト、ミニトマト)  
野菜播種(ブロッコリー)、ミツバの出荷調製

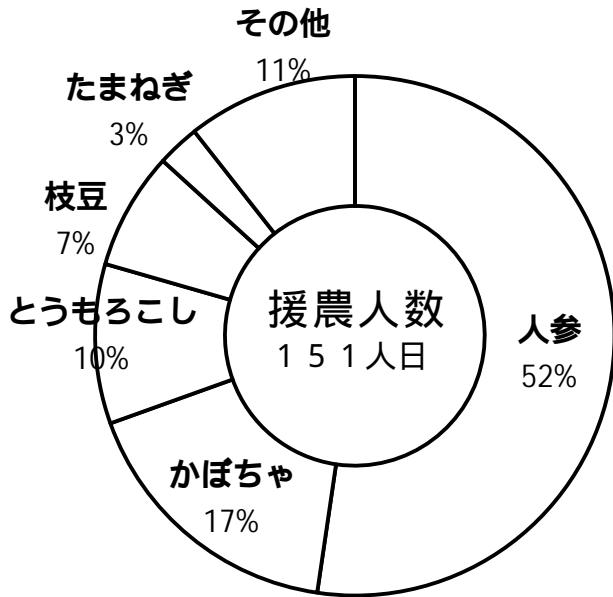
8月  
野菜の収穫・選別・袋詰(カボチャ、トウモロコシ、  
メロン、トウガラシ)  
野菜播種(ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、  
ハクサイ、晩生トウモロコシ)



ブロッコリー播種

# 援農作業実績 (2～4月)

## てんぱく支部



三か月間(2月～4月)の援農実績は、151人日。  
三か月間の援農先は、5農家。  
援農作業は、人参の収穫、選別、かぼちゃ・とうもろこし・枝豆植付け、草取り等です。

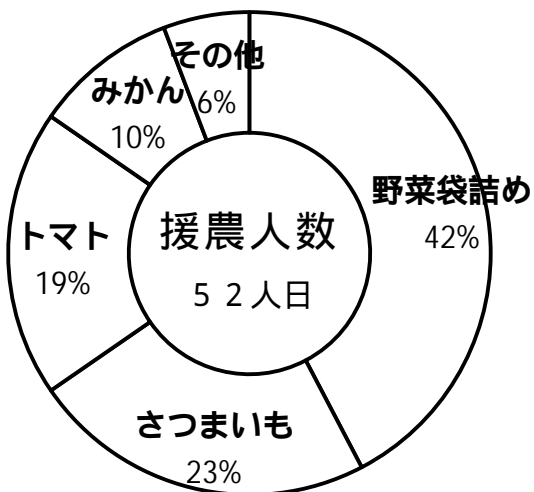
昨年度(2月～4月)の援農実績 152人日

(参考)年度実績比較

年度援農実績(22年4月～23年3月) 841人日  
年度援農実績(21年4月～22年3月) 744人日

1人日=1人1日3時間の援農作業

## みどり支部



三か月間(2月～4月)の援農実績は、52人日。  
三か月間の援農先農家は、4農家。  
援農作業は、野菜の袋詰め、さつまいも畑の耕耘、肥料まき、トマトマルチはり・下葉とりなどです。

昨年度(2月～4月)の援農実績 11人日

(参考)年度実績比較

年度援農実績(22年4月～23年3月) 209人日  
年度援農実績(21年4月～22年3月) 294人日

1人日=1人1日2時間の援農作業

# 援農作業実績 (2～4月)

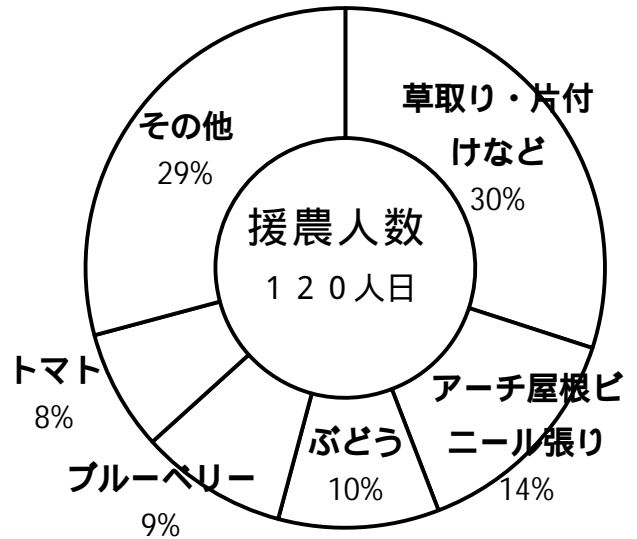
## もりやま支部

三か月間(2月～4月)の援農実績は、120人日。  
 三か月間の援農先農家は、3農家。  
 援農作業は、ぶどうの剪定、皮むき、ブルーベリーの剪定、トマトの収穫、下葉とり、アーチ屋根ビニール張り、草取りなどです。

昨年度(2月～4月)の援農実績 135人日

(参考) 年度実績比較

年度援農実績(22年4月～23年3月) 543人日  
 年度援農実績(21年4月～22年3月) 490人日



1人日=1人1日2時間の援農作業

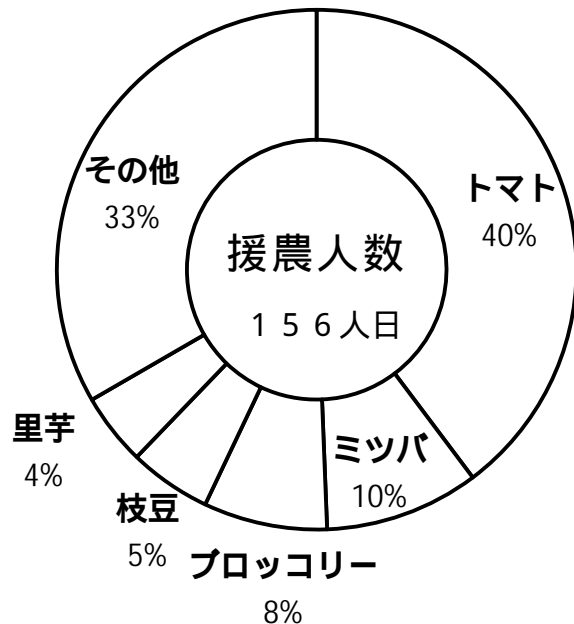
## 港・中川支部

三か月間(2月～4月)の援農実績は、149人日。  
 三か月間の援農先農家は、5農家。  
 援農作業はトマト出荷用の箱づくり、下葉とり、クリップ外し、ミツバの苗出荷作業、ブロッコリー袋詰め、枝豆の定植、里芋の収穫などです。

昨年度(2月～4月)の援農実績 100人日

(参考) 年度実績比較

年度援農実績(22年4月～23年3月) 485人日  
 年度援農実績(21年4月～22年3月) 438人日



1人日=1人1日2又は3時間の援農作業



# 農家さん紹介

榊原 幹男さん

緑区神の倉の自宅に1反5畝(450坪)の畑と東郷町にも1反5畝(450坪)の畑、他に同じく東郷町にぶどう畑と三好に水田をお持ちの農家さんです。

お爺さんの代から農家を始め100年ぐらい。20年前までは酪農をメインとし、その後大豆を作っていましたがお父さまが亡くなり大豆の栽培を終了し、現在は野菜と花づくりを主としJA朝市とスーパー平和堂に出荷しています。2022年9月からみどり支部で援農を開始し、JA朝市に出荷のための袋詰め作業等のお手伝いをしており、2023年からはぶどうのお手伝いを開始する予定です。(2022年11月に榊原さんにお話を伺った時点では、ぶどう畑を引き継がれて2年のため、ぶどうの出荷はまだ行っていないとのことでした)

榊原さんは現在70才。60才まで県の施設に勤められ、定年後ボランティアでJICA海外協力隊としてボリビアに派遣され、堆肥づくりを指導してきました。ゴミ収集の分別を普及させ、生ごみで堆肥を作り・作ったものを販売するというものです。

そして2年半後、派遣から帰られ3代目となりました。お勤め中は手伝い程度だったため、引き継がれてからは奥さまに野菜づくりを教えてもらいながら、朝市に出荷するようになりました。いろいろな野菜を作っているが、あまりスーパーに出ていない物なるべく作りたいとの思いがあり、一度作って止めてしまう物も多いとのことですが、作っている側としては面白いと楽しんでいます。「自己満足ですが」とおっしゃってはいましたが。



農楽会が援農させていただくことになったきっかけは、ぶどう畑を引き継がれたことからです。2年前に知り合いである前任者が亡くなられたため、それを引き継がれました。現在勤め人である息子さんも将来やりたいという思いがあり、引き継ぐことを決心したそうです。

ぶどうを始めてから3年ほど。昔からある木でまともな木は3本、引き継いでから10本増やした。来年ぐらいは出荷ができるが、ぶどう畑が家から離れていること、奥さまとお二人では作業が厳しいことから農業センターを通して農楽会に連絡をいただきました。農楽会については、JA緑と話しているうちに紹介をされたこと、朝市に出店している農楽会と付き合いのある方からも聞いてからのことでした。

農楽会への要望を伺ったところ、「いろいろやってもらえるので非常に助かっている。今回JA緑の紹介を受けるまで存在を知らなかったのもっとPRした方が良い気がする」とのことでした。未永くお手伝いできたらうれしいですね。

## はじめよう！ 家庭菜園(\*1)

今月号は追肥です。

追肥とは野菜の生育過程に合わせ、必要な栄養を補うために追加で施す肥料のことです。なぜ追肥が必要なのでしょう？ しっかり学んでいきましょう。

### 1. どうして追肥が必要なの？

栽培期間の長い野菜を育てる場合、実の数が増えるにつれて必要な養分も多くなります。そのため、植え付け時に与えた元肥がなくなると株の生育状況が悪化。さらに肥料切れが進むと古い葉から黄化が始まり、株全体が薄い緑色に変色し最終的には新しい葉が出なくなり、収穫が難しくなってしまいます。このような状況を避けるために追肥が必要となってくるのです。

### 2. いつ頃から追肥をするの？

野菜の種類や根の生育スピードによって異なりますが、基本的に植付けから3~4週間後です。大体そのぐらい経過すると分根し、養分を吸収する根毛が出来上がってきます。用土が乾きやすくなっていく頃が簡単な目安です。

### 4. 追肥の方法って？

トマトやキュウリなど生育期間の長い野菜や、葉が丸まって玉になり始める頃から肥料を必要とするキャベツやハクサイなどには、生育状況によって追肥を行います。追肥を施す位置は、基本的に野菜の根群の先端あたりが最も効率が高く、目安としては株元から最も離れた地上部の葉やツルの先端の下辺りになります。

追肥には速く効く速効性肥料を含んだものを用い、何回かに分けて施しましょう。特に雨などが降った後流亡しやすいので、窒素・カリ肥料が切れないうちの注意が必要です。

### 3. 追肥に適してる肥料って？

肥料にはさまざまな種類があり、追肥では固形・液体の化成肥料が使われることが多いです。液体肥料の場合は、水で薄めた後、水と一緒に与えるのが一般的で固形の化成肥料よりも液体の方が速効性が高いと言われています。



(\*1) はじめよう家庭菜園は、なごや農業協同組合様が発行されるCITYなごやに掲載されています。なごや農業協同組合様のご承諾を得て、掲載しています。

# あいちの伝統野菜

今月号はキャベツです。

キャベツは地中海沿岸やヨーロッパの大西洋沿岸の岩場などに自生する野生種から進化したものと考えられます。紀元前6世紀頃地中海に侵入したケルト人により栽培化されました。結球したキャベツは8世紀の末頃まで確認されていないので、これは、キャベツの原始型ともいえるケールであったと推定されます。13世紀にイギリスで結球性のキャベツが記録され、この頃から各国で改良が進められました。アメリカには17世紀、中国へも17世紀にオランダから華南に入り、華北には陸路中央アジアから入りました。わが国には宝永年間（1704年頃）にオランダ人より長崎に入り大和本草には壘種紅夷菘（おらんだな）「葉大にして無光、白けたり。花は淡黄色大根の花の如し、味佳、うえて後3年にして花開く、是菘の類なり」とあり、この記述から渡来したのは不結球又は半結球のケールで紅紫色の系統だったと思われます。

味よしとあるが、わが国では花物として改良が進められ葉牡丹が生まれた。キャベツの呼び名は時代とともに変わっています。明治初年の舶来穀菜要覧では漢名の甘藍（かんらん）をあげ、はぼたんと振り仮名し、一名ボタン菜、椰菜、たまな、英名キャベッジとしています。戦後はキャベツが一般名となり、園芸学会編園芸作物名編でもキャベツ、別名カンラン、タマナとしています。結球性のキャベツがわが国で初めて栽培されたのは安政年間（1855年頃）。明治7年には勸業寮（注）が欧米から種子を取り寄せ山形など5県で試作させました。

別に北海道にも欧米から伝えられ北海道開拓使は栽培に成功し注目されました。

わが国でのキャベツ栽培の定着は民間育種家による日本向けの品種の育成に負う点が大きく、東京の中野藤助、庫太郎父子による中野早生と静岡の石井次郎氏による豊田早生が大正5年に育成され、愛知の野崎綱次郎氏は野崎早生を育成しました。これらの品種は秋まき初夏どり栽培の場合、トウ立ちが従来の欧米品種より著しく遅く、春先の葉菜の端境期の葉菜として注目されキャベツ栽培増加のキッカケとなりました。このようなすぐれた品種の育成と生態的特性の研究から多くの作型が開発され、品種、播種期、栽培地と栽培法の組み合わせで周年出荷できるようになり、欧米で最も重要な葉菜とされているキャベツは導入以来約100年で煮食、油いため、漬物など各種の料理に用いられ洋風、和風、中華風など用途が広い。

近年はサラダとして生食することも多く、日本の野菜、それも最も重要な野菜のひとつとなりました。

愛知県のキャベツは、作付面積が全国一で、特に冬から春にかけて県内をはじめ全国の消費地に出荷されています。その生産の歴史は、全国で最も古く、明治時代に名古屋市近郊で都市園芸として始まりました。

野崎中生キャベツと愛知大晩生キャベツが愛知の伝統野菜に選ばれています。



野崎中生キャベツ

写真：あいち在来種保存会提供

葉は淡緑色の扁平大型球で品質の良い中生種。大正から昭和前半期の日本キャベツの代表的品種。



愛知大晩生キャベツ

形状はやや扁平で、2～3kgの大玉になる。抽台が極めて遅い晩生品種で、芯が大きくなれない。葉脈が太くて多く、葉が波打っている。葉肉が厚く、甘みがある。

参考文献

日本のふるさと野菜（一般社団法人日本種苗協会発行）

日本の野菜文化史事典（青葉高著 八坂書房2013）

あいち在来種保存会

愛知県HP愛・地産・アラカルト（農業水産局農政部園芸農産課）

## 編集後記

今年度の総会は4月23日（日）に名古屋市中土木事務所で開催の広さと3蜜防止のため分割開催で行われました。農業センターの指定管理者への移行に伴い窓口は名古屋市都市農業課に変わりますが援農に関する変更はございません。5月8日以降は、5類に移行しマスクの着用は個人判断になるなどコロナについては日常が戻ってきています。一方これからは熱中症の季節となりますので、水分を十分とるなど熱中症対策に心して援農に取り組んでいきましょう。

発行 **なごやか農楽会事務局**（水野・佐藤） 令和5年5月30日発行

なごやか農楽会は、名古屋市内の農家のお手伝いを主な活動とする農業ボランティアグループ。

会員は、全て農業ボランティア育成講座修了生です。